東日本大震災によって、

岩手県労働者のメンタルヘルスは悪化したのでしょうか？

（被災地域労働者の震災前後のストレス状況の変化と悪化に影響する要因の探索
独立行政法人 労働者健康福祉機構 岩手産業保健支援センター 平成25年度産業保健調査研究 ） 研究成果より

［研究目的］

平成23年3月11日の東日本大震災により岩手県沿岸地域は甚大な被害を受け、多くの方が亡くなり、また多くの方が家族を失いました。そして、職場を失い、地縁の方々とのきずなを断たれたままで生活を送らなければならない多くの労働者の方々は、精神的なストレスがたまったまま十分なケアを受けられずにいることが危惧されます。しかし、労働者のメンタルヘルスについて、多くの労働者を対象とした調査は十分に行われておらず、その実態を知ることが求められています。

本研究では、震災前から岩手県労働者を対象に行われていた岩手県内労働者のメンタルヘルス状況調査の平成22年度から平成24年度までの経年的な大規模データを利用して、東日本大震災によって労働者のメンタルヘルスが悪化したのかを検証することを目的としました。

【方法1：対象者】

平成22年から平成24年の間に岩手県で実施したメンタルヘルス状況調査に協力した労働者

総数51,284件（複数回受診者を含む） 男性労働者 31,687 名 （17～85 歳 平均43歳）
女性労働者 19,597 名 （15～81 歳 平均42歳）

内陸地域：	男性労働者	23,915 名	女性労働者	14,885 名
沿岸地域：	男性労働者	7,040 名	女性労働者	4,343 名
住所地不明：		183 名		

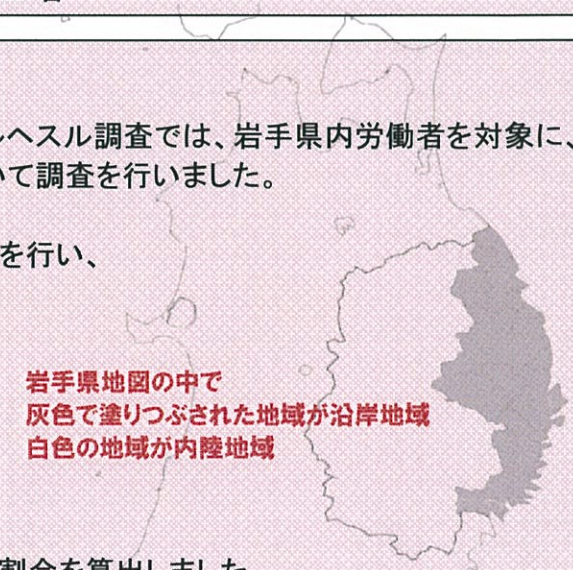
【方法2：調査方法と解析手法】

本研究の元となった岩手県内事業場におけるメンタルヘスル調査では、岩手県内労働者を対象に、旧労働省が開発した「職業性ストレス簡易調査票」を用いて調査を行いました。

各労働者の回答をもとに、標準化得点法によって採点を行い、

仕事のストレッサー関連2項目
1.仕事の負担量が大きいと感じる
2.自覚的な身体負担が過重であると感じる

心理的ストレス反応関連2項目
3.疲労が強いと感じる
4.抑うつ感が強いと感じる



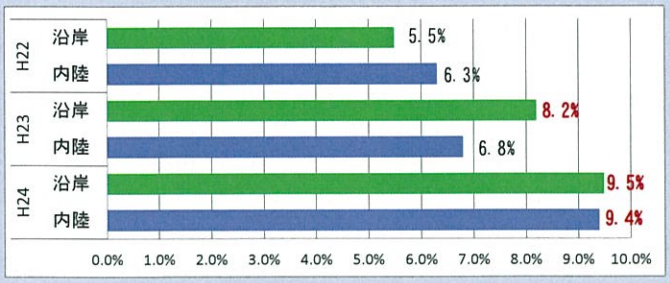
岩手県地図の中で
灰色で塗りつぶされた地域が沿岸地域
白色の地域が内陸地域

上記4項目を取り上げて全体の人数に占める不良者の割合を算出しました。

不良者の割合を、年度別に沿岸地域（津波被害地域）と内陸地域に分けて算出し、震災前の平成22年度の割合を基準として、平成23年度（震災年）と平成24年度（震災翌年）の割合を、χ^2検定で比較検定しました。

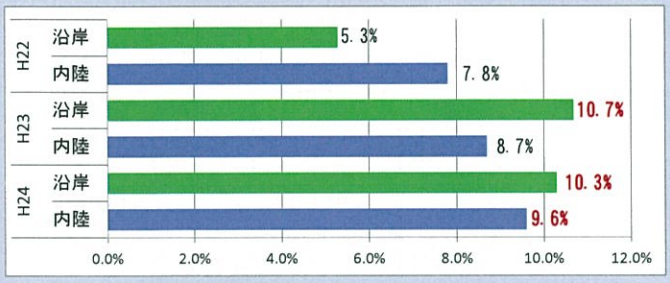
男性労働者 調査結果

仕事負担(量) 不良者の割合



身体負担 不良者の割合

疲労 不良者の割合

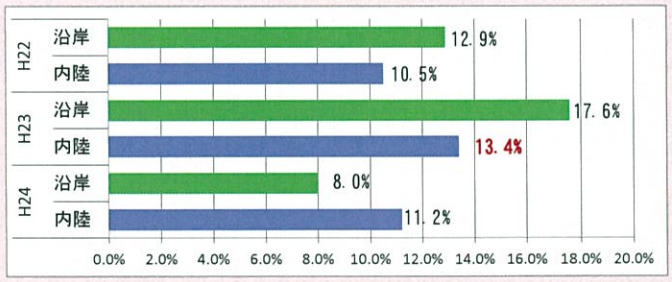


抑うつ 不良者の割合

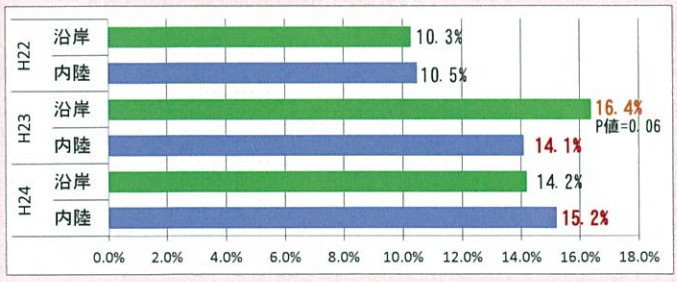
女性労働者 調査結果

仕事負担(量) 不良者の割合

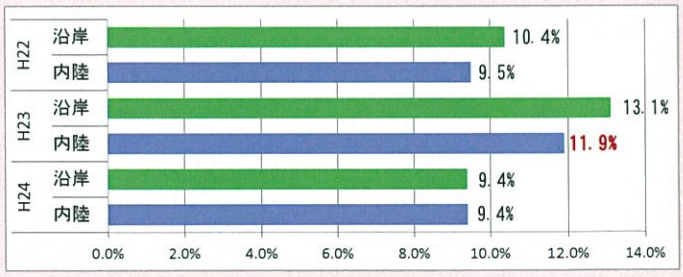
身体負担 不良者の割合



疲労 不良者の割合



抑うつ 不良者の割合



【結論】

震災前の平成22年度に比べて、震災年では仕事の負担が重い、疲労が強い、と感じている労働者の割合が多くなっており、特に沿岸地域でその傾向が強くなっていました。また男性より女性でメンタルヘルス不良者が増えていました。仕事の負担が重いと感じる労働者割合は震災翌年も多いままでした。

岩手県労働者のメンタルヘルス状況を見ると、 震災後に労働負担が増していると感じる労働者が多くなっており、また強い疲労感を感じている労働者が多いことが判明しました。これらの労働者への労働負担を軽減する対策が求められます。

独立行政法人労働者健康福祉機構
岩手産業保健総合支援センター
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通2-9-1 マリオス14階
E-mail iwate@sanpo03.jp URL http://www.sanpo03.jp/

詳細については、岩手産業保健総合支援センターHP https://www.sanpo03.jp/pdf/13houkoku.pdfをご覧ください。